

I 事業の概要

重点評価

I-1 事業の概要

事務事業名	鴨川の自然の恵みを育む協働事業	所管局部課等	環境政策局地球温暖化対策室
ホームページアドレス	http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/soshiki/5-7-0-0-0.html	(連絡先)	2 2 2 - 4 5 5 5
		(評価票作成者)	「DO YOU KYOTO?」プロジェクト推進担当課長 上田 誠

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	目標達成度評価
-	1,000	充実	1,000	指標： 共同活動参加人数
業務運営方法	☐ 直営 ☐ 部分委託 ☐ 部分補助等 ☐ 全部委託 ☒ 全部補助等	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 (名称) 京の川の恵みを活かす会 (内容) 「京の川の恵みを活かす会」が行う鴨川流域における恵みを活かす共同活動に対し、補助を行う。		かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H20年度 H21年度 H22年度
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	京都市地球温暖化対策計画(2011-2020)			事務事業の性格 ☐ 義務的事業 ☒ 任意的事業
開始時期	平成 23 年度	終了(予定)時期	平成 年度	類型 1 1 その他
				会計区分 ☒ 一般会計 ☐ 特別会計

事業概要	対 象	(誰を、何を) 鴨川流域を舞台とした、学識経験者、農林漁業者団体、市民団体、社会教育団体、行政等の関係団体、個人による協働組織「京の川の恵みを活かす会」
	活 動 内 容	(どのような手段で) 「京の川の恵みを活かす会」会員を中心に、サポーターの協力・支援のもと、①アユなどの在来の多くの魚介類が生息しやすい環境づくり、②川の恵みを豊かにする森づくり、③川の恵みを楽しむ活動、④地球温暖化の防止など自然環境を気遣う暮らしの啓発 などについて、実践活動、調査・研究や情報発信等を行う。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) ①鴨川流域で天然アユなどの生き物が生育しやすい環境づくり等へ、様々な主体が参画していること ②地球温暖化等による身近な自然環境の変化に対する市民意識や、これを気遣う暮らし(自然の恵みを活かす生き方)が定着していること ③鴨川流域の自然の恵み(京の食文化を支えてきた生き物)が持続的に活用されていること

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H 2 2 年度決算	H23年度予算	H24年度予算	
	①	事業費 (千円)				1,000	1,000	
		負担金補助及び交付金					950	950
		旅費					50	5
		需用費						45
	①'	委託料						
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①) (%)						
	③	人件費 (24年度は見込) (千円)				4,253	4,253	
		職員 (課長級) (人)					0.05	0.05
		職員 (課長補佐級、係長級) (人)					0.20	0.20
		職員 (係員) (人)					0.20	0.20
		嘱託職員等人件費 (千円)						
	④	年間経費 (①+③) (千円)				5,253	5,253	
	⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外) (千円)						
国庫・府支出金 (千円)								
受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)								
その他() (千円)								
⑥	京都市年間負担経費 (④－⑤) (千円)				5,253	5,253		
⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④) (%)				0.0%	0.0%		

平成23年度
(平成22年度分)

事業名 鴨川の自然の恵みを育む協働事業

Ⅱ 評価結果

Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価

評価実施年度 **23** 年度

A 公共性	(公益性) ☒ より多くの市民に提供されるサービス ☐ 特定の個人又は集団に提供されるサービス	(必需性) ☐ 日常生活に必要不可欠なサービス ☒ 日常生活に必要不可欠でないサービス	『公共性評価』 個人消費性(私益) ②必需・個人消費性 ①必需・共同消費性 共同消費性(公益) ③選択・個人消費性 ④選択・共同消費性 選択
B 行政関与の妥当性	関与の妥当性の程度(高・中・低) 高		(判断理由) アユなどの生き物が生息し、これを持続的に活用していくことができる環境は、市民全体が享受できる自然の恩恵であり、公益性は極めて高く、行政の積極的な関与が求められる。
C 受益者(サービスを受ける側)負担の妥当性	(負担を求める必要性) 無	(見直しの必要性) 無	(判断理由) 「京の川の恵みを活かす会」の活動は、会員の協働であり、会員は会の活動に参加するものとなっている。
D 実施主体(サービスを行う側)の妥当性	(政策性) ☒ 政策的意思決定を必要とするサービス ☐ 経常業務の度合いが高いサービス	(行政専門性) ☒ 行政上の専門知識を必要とするサービス ☐ 行政上の専門知識を必要としないサービス	『実施主体の妥当性評価』 行政専門性 ②経常的・行政専門性 ①政策的・行政専門性 政策形成・意思決定 ③経常的・一般専門性 ④政策的・一般専門性 一般専門性
その他	事務事業実施上の課題、環境等外部要因の変化等	広く企業(CSR活動)の参加を呼び掛け、会の資金調達を行っていく必要がある。また、鴨川及び高野川での活動は、鴨川府民会議の意見に基づき実施し、府河川管理者との調整が必要である。	
	当該事務事業を廃止・休止した場合の影響	地球温暖化、水質汚濁、湧水減少、ごみ投棄、外来生物、森林放棄など、都市化による様々な環境への影響がある中で、京の食文化を支えてきたアユなどの自然の恵みを回復し、これを活用していくことは困難である。	
	どのような状態になれば事務事業の廃止を検討するのか	都市化による様々な環境への影響がある中で、様々な人々の協働により、自然の回復力を手助けする活動を展開し、京の川の恵みを豊かにし、これを持続的に活かしていくことができるようになるまで継続する。	
	他の自治体の動向	<取組・見直し状況等>	

Ⅱ 評価結果

事業名 鴨川の自然の恵みを育む協働事業

Ⅱ-2 業績評価

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H 2 2 年度	H23年度	H24年度
指標 1	共同活動参加人数	目標値 …①	人				250	250
		実績値 …②	人					
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類	増加することが良いとされる指標	評価					
指標 2	天然アユ遡上数量	目標値 …①	尾				-	20,000
		実績値 …②	尾					
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類	増加することが良いとされる指標	評価					
総合評価								

	指標の選択理由	目標値設定の考え方
指標 1	アユなどの在来多くの魚介類が生息しやすい環境づくり等への協働に関する指標を設定する。	各活動に必要な人数の合計として設定する。
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名
指標 2	アユなどの在来多くの魚介類が生息しやすい環境づくり等の活動について、その成果の1指標として設定する。	平成23年度の鴨川天然アユ遡上数をベースに、今後、京都の環境の象徴の1つとして監視していく。
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名
分 析	<実績値の変動理由等>	

B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H 2 2 年度
	①					
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円			
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位			
	④	単位当たり経費変動率				
分 析						評価
	<コスト変動の理由等>					

C 市民参加度	企画段階 ☐ 高 ☐ 中 ☒ 低 ☐ 無	<現状分析、今後の方針等> 会の活動においては、サポーターの参加を呼び掛ける。	
	実施段階 ☐ 高 ☒ 中 ☐ 低 ☐ 無		
	評価段階 ☐ 高 ☒ 中 ☐ 低 ☐ 無		
D 市民満足度	<調査の有無> ☐ 有 ☒ 無 ☐ 該当しない		<調査結果、現状分析等>
	<調査方法>	<調査時期>	
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	■ 環境 ☐ 関連 ☐ 一般		<現状分析、今後の方針等> 「京の川の恵みを活かす会」の活動は、環境保全活動である。また仮設魚道の設置においては、市内の杉や竹の間伐材を積極的に利用している。

平成23年度の実施状況	・5月～7月、鴨川の龍門堰（伏見区下鳥羽）に手づくりの仮設魚道を試験設置し、会員とサポーターが毎日、魚道を通過する魚類の数を計測した。 ・龍門堰を越えたアユがどこまで到達しているかなどを確かめるため、8月に、鴨川の魚類分布を調査した。
-------------	--

市会・監査・外部機関等からの指摘	
------------------	--

Ⅲ 今後の方向性

充実	(今後の方向性の理由及び具体的な内容) 順次上流に向けての仮設魚道の追加設置、鴨川等魚類分布調査、シンポジウムの開催、川の恵みを豊かにする森づくりなど、活動範囲や協働体制を広げていく。 また、桂川において、翌年のアユ遡上数を増加させるための産卵場造成を行うとともに、淀川流域の他河川でも産卵場造成等が行われるよう、呼び掛け、連携等を図っていく。 なお、平成24年度から事務事業名を「京の川の恵みを活かす事業」(所管部局課 産業観光局農林振興室農業振興整備課)とする。
----	--